

Y23b **計算機ネットワークに支援された高校天文教育 - 国立南九州病院での HOU を事例として -**

五島正光（巢鴨高） 縣秀彦（国立天文台） 千頭一郎（県立沖永良部高） 柴田直人（筑波大教育） 畠中亮（東工大社会理工）

鹿児島県立加治木養護学校に通う病虚弱児（肢体不自由）の病院内天文クラブで、HOU が実践されている。参加生徒は6名で、全員車椅子で国立南九州病院で入院生活をしている。このため、学校と病院以外の外部との交流がほとんど出来ないが、HOU の活動が始まってからは、キーボードまたは特殊入力装置を利用して、電子メールを使っての外部の支援者との交流が始まった。特にハワイの Fritz Osell 氏（Leeward Community College）との交流は盛んで、彼はメールのほか生徒がリクエストした天体画像を提供している。また、HOU の代表者や JAHOU メンバーが直接病院を訪問し交流を深めている。

東京にある高校（東工大附属工業高校）とも簡易 TV 会議や電子メールによって交流を深め、天文クラブの一人が車椅子で東京の高校を訪問するなど、それまでの同病院の入院患者ではあまり例のない対外的な活動が進んでいる。

このように、インターネットを活用した学習は、病虚弱児の周囲の人との交流への意欲を高め、学習におけるバリアフリーを実現するとともに、生きるための活力源とも成りうることが分かった。